

IGCJ MLの公開非公開検討に あたっての整理

2017/9/28 第21回IGCJ

IGCJを考える会

MLでの議論

- 8月にIGCJの過去記事閲覧に関する質問に端を発し、MLの公開/非公開に関するメールが計35通(計18人より)発信された
- 公開希望寄りの意見
 - 過去の議論を追いたい、新規参加者に優しくない
 - インターネットガバナンスの原則からも公開すべき
 - ただし公開するにしても、ルールが必要では
- 公開を希望しない寄りの意見
 - 自由闊達な意見が言いづらくなる
 - メールは発信した本人の著作物であるから本人の同意が必要

- 35通のメールから浮き上がってきた論点
 - 「透明性／新規参加者への優しさ」
 - 「自由な意見が言える場」のバランスをどうとるか
- バランスを取る過程において、皆が納得できるルールをどう作って、どう同意を取るか
 - 著作権などについても配慮が必要

現状の整理

- 別紙「IGCJ MLのアーカイブ公開に関する整理」を参照
 - 「過去のMLの取り扱い(明確に合意されたルールがないML)」と「これからのMLの取り扱い(これからルールを作っていけるもの)」に分け、論点、利点・欠点、やり方を記載
- この表などをベースに(ML運営のあり方を検討する)小さな作業グループを作り進めるのはどうか
- そのコンセンサスに従って、MLの取り扱いを実装するプロセスに入る

(別紙)IGCJ MLのアーカイブ公開に関する整理

	方針	方法		MLの議論から浮き上がった論点		実現性	利点・欠点	公開に向けて必要なアクション
		公開対象のメール	閲覧対象者	透明性	自由な意見が言えるか			
今までの議論 (ML) の扱い	完全公開	今までの全てのメールを	誰でも見られるようにWEBで公開する	今までの議論を誰でも見ることができる	N/A (この整理時点で過去の投稿/発言になるため、該当しない)	公開には著作者(メール送信者)全員の許可が必要	・利点: 誰でも過去の議論をさかのぼって参照可能(透明性が高く、新規参加者も過去の議論を追うことができる) ・欠点: 過去の投稿について公開許諾を得ることは非現実的か?	・公開MLを提供する人を決める(ボランティアか事務局か)、またその上で投稿・公開のルールを策定する ・著作者(メール送信者)全員に公開の許可を取り、全員の許可が得られたら公開する
	条件下での公開		アクセス制限を設けてML参加者のみに公開する	MLに参加すれば、今までの議論を誰でも見ることができる		公開には著作者(メール送信者)全員の許可が必要だが、条件付きの環境のため、許可がもらえる可能性が高まる	・利点: 過去の議論をさかのぼって参照可能、著作者の許可をもらえる可能性も高い? ・欠点: ML参加に制限がない以上、完全公開との違いは無い?	・MLを提供する人を決める(ボランティアか事務局か) ・提供方法と投稿・公開のルールを決める(参加者にID/PASS等) ・著作者(メール送信者)全員に公開の許可を取り、全員の許可が得られたら公開
		著作者が公開を許可したメールのみを	誰でも見られるようにWEBで公開する	今までの議論を誰でも見ることができるが、許可を得られなかった一部過去の議論は追えない		著作者(メール送信者)に許可が取れたデータのみ公開可能	・利点: 許可があったメールについては、誰でも過去の議論をさかのぼって参照可能 ・欠点: すべての議論が参照可能にはならない	・公開MLを提供する人を決める(ボランティアか事務局か)、またその上で投稿・公開のルールを策定する ・著作者(メール送信者)全員に公開の許可を取り、許可が得られたメールのみ公開する
	アクセス制限を設けてML参加者のみに公開する		MLに参加すれば今までの議論を見ることができるが、許可を得られなかった一部過去の議論は追えない	著作者(メール送信者)に許可が取れたデータのみ公開可能		・利点: 許可があったメールについての議論をさかのぼって参照可能 ・欠点: すべての議論が参照可能にはならない	・著作者(メール送信者)全員に公開の許可を取り、許可が得られたメールのみ公開 ・限定公開MLを提供する人を決める(ボランティアか事務局か) ・提供方法を決める(参加者にID/PASS等)	
公開しない		従来と同様 (これまでのIGCJ-member MLを公開しない)		参加者しかMLの議論を見ることができず、過去の議論も追えない	N/A	・利点: 従来と何も変わらないため、特段の作業が必要ない。著作権などもめる必要がない ・欠点: 過去の議論をさかのぼって参照したい、透明性の確保などの点でなんの進展もない?	N/A	

	方針	方法		MLの議論から浮き上がった論点		実現性	利点・欠点	公開に向けて必要なアクション
		現在のML/新しいML	閲覧対象者	透明性	自由な意見が言えるか			
これからの議論 (ML) の扱い	完全公開	今までのIGCJ-member MLにおいて今後のメールを 新しいMLに移行し、そこでの議論を	誰でも見られるようにWEBに公開する	議論を誰でも追うことができる	発言が永続的にアーカイブに残り参照可能のため、気軽な発言がしづらく、躊躇、萎縮する人がでて関連な議論を妨げる可能性がある	公開に関するルールが無かったため、WEB公開には全員が合意できるルールの作成とIGCJ-member ML参加者全員の許可が必要	・利点: 誰でも議論をさかのぼって参照可能 ・欠点: 全員が合意できるルール作りと許諾を得ることは非現実的か?	・ルールを作り、現在のIGCJ-member参加者全員の同意を得る。
						新しいMLには、そのMLのルールや発言が公開されることに同意した人が移行となるため著作権の問題などはクリアされるが、その過程で参加者が減る可能性がある	・利点: 誰でも議論をさかのぼって参照可能 ・欠点: 参加者が減る可能性への対応? 古いMLの取り扱い	・公開する新しいMLをルールと共に作成し移行 ・古いMLを残すかどうかの検討
	条件下での公開	今までのIGCJ-member MLにおいて今後のメールを 新しいMLに移行し、そこでの議論を	アクセス制限を設けてML参加者のみに公開する	MLに参加すれば議論を追うことができる	参照はML参加者となるため、完全公開より自由な意見が言いやすい	公開に関するルールが無かったため、WEB公開にはルールの作成とIGCJ-member ML参加者全員の許可が必要だが、完全公開より許可を得られる敷居が低い	・利点: 誰でも議論をさかのぼって参照可能 ・欠点: 全員が合意できるルール作りと許諾を得ることは非現実的か? 完全公開よりは理解を得やすいか?	・ルールを作り、現在のIGCJ-member参加者全員の同意を得る。
						新しいMLには、そのMLのルールや発言が公開されることに同意した人が移行となるため著作権の問題などはクリアされる。また完全公開より理解を得られる敷居が低い	・利点: 誰でも議論をさかのぼって参照可能 ・欠点: 参加者が減る可能性への対応? 古いMLの取り扱い	・公開する新しいMLをルールと共に作成し移行 ・古いMLを残すかどうかの検討
公開しない		従来と同様 (これからのIGCJ-member MLを公開しない)		参加者しかMLの議論を見ることができず、過去の議論も追えない	発言がアーカイブとして残らないため、その点を気にする必要がない	N/A	・利点: 従来と何も変わらないため、特段の作業が必要ない。著作権などもめる必要がない ・欠点: 過去の議論をさかのぼって参照したい、透明性の確保などの点でなんの進展もない?	N/A